



実践報告・高等学校第3学年2学期前半における評論 の初読要約：國分功一郎「意志と選択」を例に

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 国語探究研究会 公開日: 2026-03-06 キーワード: 評論, 初読, 要約, 論理把握, 到達度 作成者: 青山, 昌弘 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.32150/0002000800 |

実践報告・高等学校第3学年2学期前半における評論の初読要約

—國分功一郎「意志と選択」を例に—

青山昌弘

キーワード 評論 初読 要約 論理把握 到達度

1 はじめに一問題の所在と目的—

2024年度の1年間および2025年度の1学期(4月から7月)、初読段階で評論を生徒に要約させる学習指導を実践し、報告してきた(注1)。私は引き続き、第3学年の2学期前半(2025年9月下旬)に評論を初読で要約させる学習指導を実施した。この学習指導の時期は、私の勤務校での進路指導等の実情を踏まえたとき、生徒自身にとって他者の論述した文章や話した内容を速く正確に捉える力について到達度を認識する機会になる。もちろん、これは、高校3年生の4月当初に評論を初読で要約する意義をしっかりと教師が伝えていることを大前提とする。同時に教師にとっては自分自身の指導の振り返りや改善に生かすこともできる。本稿は、初読要約を通して高校卒業段階で生徒たちに初読の文章を論理把握できる力の育成を目指した実践報告であり、その成果と課題を述べるものである。

2 実践の概要

(1) 評論を初読で要約させる指導方法

これまでの実践してきた指導方法を参考に、以下に示すアからケまでの9点を設定した(注2)。

- ア 学習指導する評論教材の最初の授業で生徒に要約をさせる。(教材として扱う評論は生徒にとって初見の状態である。)
- イ 教師が制限時間を設定する。
- ウ 教材研究により、評論ごとに要約する意味段落や字数を変更する。
- エ 「国語設問解答シート」を配布して要約を書かせる。(縦書き20字×27行で作成した。A4サイズの裏表で印刷したものを生徒に配布する。)
- オ 授業内で教師が書いた要約の解答例を、プロジェクターを用いてスクリーンに映してクラス全体に示す。
- カ 要約のポイントを数点に絞り、教師が要約のための論理構造を解説する。
- キ 最初の授業内で上記のアからカまでを必ず完了する。(すぐにフィードバックすることで、生徒が本文の論理構造を捉えやすくするためである。)
- ク 上記のカまでを終えたら、本文の語句の意味を辞書で調べさせる。
- ケ 「国語設問解答シート」を必ず提出させる。授業で緊張感を持って取り組ませたいため宿題にさせない。提出したものを点検して、次回の授業で返却する。

(2) 初読要約の授業展開—生徒の学習活動を中心に—(1時間の授業が50分の場合)

- ①本時で取り組む学習課題(初読要約)を知る。【3分】
- ②初読で評論の要約を書く。【20分】
- ③自分が書いた要約を数名と共有する。【3分】
- ④教師が示した解答例を通して本文の論理構造を把握する。また、要約するうえで必要な個所や

表現を知る。【10分】

⑤本文に用いられている語句の意味を調べる。【12分】

⑥「国語設問解答シート」を提出する。次回の予告を聞く。【2分】

（3）対象と実施時期

第3学年の理系2クラス（42名・41名）を対象に、「論理国語」の授業で学習指導を展開した。実施期間は2025年9月下旬である。

（4）評論教材・國分功一郎「意志と選択」について

『論理国語』（数研出版）に所収されている國分功一郎「意志と選択」という評論を教材として扱う。

本評論教材の「ねらい」について指導書では、「私たちは、普段、多くの言葉を用いている。その一つ一つの語の概念を言葉で説明することができないののである……【中略】……その言葉の概念をしっかりと言語化してみると、見えてこなかった問題が浮き出てくることに気づくはずである」という。このことを本文では「意志」「選択」を中心に述べていくわけだが、筆者は「意志で決めた」と言うときは、自分の心で決めたと思いたいが、実際は「選択」に後から理由付けをしているのに過ぎないと問題提起する。なるほど「意志」と「選択」は違うということ認識させ、自分が行動するうえでの一助になるという内容的価値を含み持つ。

この評論は『中動態の世界—意志と責任の考古学』（2017年・医学書院）の一部分を基にしている。指導書によると、第1章「能動と受動をめぐる諸問題」・第5章「意志と選択」から採録したという。教科書の本文は3000字程度の評論教材である。原文から省略された箇所や補った箇所がある。それに加え、出典とした本文の第1章から第5章の間の各章の原文を教科書には載せていない。ここで注意すべき点がある。教科書に教材として再構成された文章であるがゆえに、教科書に採録されていない原文を生徒にプリント等で適宜補いながら学習を進める方法があるだろうが、それはほしくないことである。一見、先に述べた内容的価値を生徒により理解させるのに適した方法と考えられる。だが、生徒たちは限られた時間の中で初読の文章を正しく捉える力が求められている。この現実を直視したとき、教師が本文の内容をより深く理解させようとする、生徒は本文の論理構造を理解できずに終わってしまう恐れがある。まずは本文の論理把握を教科書に所収された本文を基にしっかりと学習させる時間を設ける。評論を論理的文章という文章の種類として指導する姿勢を堅持すべきである、と私は考える（注3）。よって、本実践において生徒に初読で要約させる際も、あくまでも教科書に掲載されている本文を対象とする。

（5）当該教材における初読の要約について

教科書の本文は全部で22の形式段落で書かれている。文章全体を3つの意味段落に分けることができる。形式段落1から5が意味段落1（720字程度）、形式段落6から17が意味段落2（1510字程度）、形式段落18から22が意味段落3（780字程度）である。筆者は、意味段落1で「意志とは謎めいた曖昧な概念である」と述べる。そして、意味段落2では「意志と選択とは明確に区別される」もので、意味段落3で「意志と選択のすり替えて混乱が生じる」と論を展開していく。

初読要約では、次の①と②を課題とした。

①意味段落1を100字以内で要約する。

②文章全体を100字以内で要約する。

意味段落2と意味段落3を、初読要約の課題としなかったのには理由がある。意味段落1は筆者が捉える「意志」の紹介であるといえる。対して、意味段落2と意味段落3は、単に「意志」の紹介が続くのではなく、「意志」と「選択」を通して、筆者の問題視する核心が述べられる。本文全体を100

字以内で要約しようと思つくと、意味段落1を用いずに書くことが可能となる。指定された要約の問いによって、生徒に意味段落ごとに言葉の具体と抽象があり、各意味段落の役割も認識させることをねらえるのである。他者の論述を速く正確に捉える思考・判断・表現をしている。このことを通して、高等学校卒業段階における国語学力の到達基準と見なすことができると考えた。

(6) 指導上の留意点

以下に本評論教材を初読で要約させるうえでの留意点を述べる。

本評論教材では20分間で実践した。生徒に時間制限を守らせる。

教科書本文への書き込みは鉛筆もしくはシャープペンシルを使用させる。生徒は黒色のみで本文に書き込みをする。その理由は、大学入試ではこの条件で問題を解くからである。ただし、私は本文への書き込みをプロジェクターでクラス全体に示すとき、生徒に見やすくするために複数の色を用いている。生徒自身に対して、本年度1学期までの実践では、黒色のみで書き込ませる指示をしては来なかった。黒色のみとすることでチェックの仕方を工夫する必要に迫られる。この些細な事が、筆者の論展開をより生徒自身が捉えやすくさせる一助にもなる。1学期までに黒色のみで本文への書き込みをしている生徒も多くいる。教師が複数の色で本文へのチェックをして来た生徒を否定しない。

教師が書いた要約例(資料1と資料2)をクラス全体に示す際には、本文のどの箇所を要素としているかを必ず確認させる。その際も本文に書き込みをするように生徒に指示する。

生徒に初読要約させる2つの課題を提示する際、生徒全員に「これまでの初読で要約する学習を通して、本文を俯瞰して捉える力、論理把握ができていくかの自分自身へのチェックにもなる」と取り組む意義を伝える。この時期においても、教師がしっかりと学習する意義を生徒に説明できるかが、生徒の論理的思考力を鍛えるうえでのポイントであろう。

生徒は書いた初読要約を共有する際には、自分の「国語設問解答シート」を共有する相手に渡して、書いた初読要約を黙読させる。そして、生徒たちは本文のどの箇所を要素としてまとめたかを確認し合う。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 概 | 味 | す | 選 | し | さ | 同 | つ | 自 | 意 |
| 念 | で | か | 択 | て | れ | 時 | 働 | 分 | 志 |
| で | | で | に | | に | | き | や | は |
| め | 謎 | も | よ | 自 | 情 | | と | 周 | 辺 |
| る | め | め | つ | 発 | 報 | そ | は | 田 | と |
| の | い | る | て | 的 | か | う | す | と | は |
| | た | と | 行 | に | ら | し | か | 志 | 概 |
| | 暖 | い | 為 | 自 | は | て | で | 概 | 念 |
| | 味 | う | を | 由 | 独 | 志 | あ | し | た |
| | は | 志 | は | な | 立 | 識 | る | つ | が |

論理的な文章
意志と選択
國分功一郎
初読で要約する
意味段落①
形式段落①〜⑤
100字

資料1 プロジェクターで映した意味段落1の初読要約例

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| に | 替 | い | が | 区 | 呼 | 地 | 採 | ら | あ |
| 混 | え | て | 別 | 別 | ひ | 点 | で | の | ら |
| 乱 | ら | 選 | 抽 | さ | 出 | を | あ | の | ゆ |
| か | れ | 採 | 象 | れ | さ | 確 | る | 結 | る |
| 生 | て | が | 的 | ね | れ | 定 | ・ | と | 行 |
| じ | し | 意 | な | は | る | す | 行 | し | 為 |
| て | ま | 志 | 論 | ら | 志 | た | 為 | て | は |
| い | う | と | 論 | ら | 志 | た | の | あ | 過 |
| る | た | す | に | は | と | め | 閉 | る | 去 |
| め | り | お | い | は | に | 始 | 選 | か | |

論理的な文章
意志と選択
國分功一郎
初読要約
・文章全体を1000字以内
で要約。

資料2 プロジェクターで映した文章全体の初読要約例

3 結果 授業記録とその分析

以下、理系2クラス(計83名)の生徒が提出した初読要約から3名を抽出して分析を試みたい。なお、生徒名はA・B・Cとする。加えて、語句の意味調べをした生徒の例を示す。これは生徒名をDとする。

文章全体

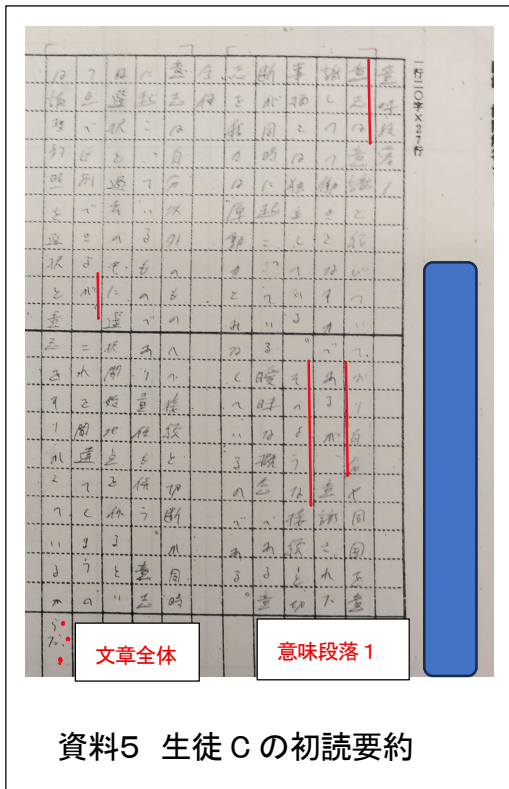
意味段落1

資料3 生徒Aの初読要約

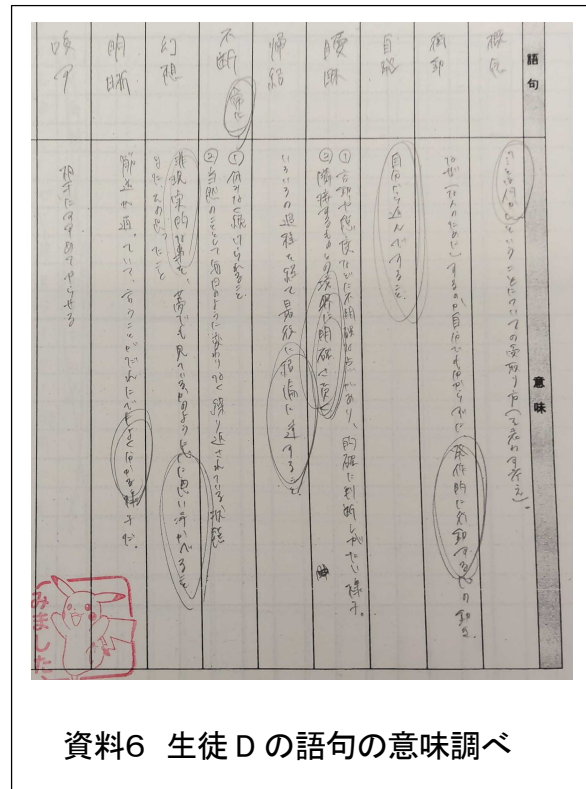
文章全体

意味段落1

資料4 生徒Bの初読要約



資料5 生徒 C の初読要約



資料6 生徒 D の語句の意味調べ

資料3は生徒 A の初読要約である。資料3の右側が意味段落1の要約、左側が本文全体の要約である。

生徒 A は、意味段落1の要約を 3 文で書き、本文全体の要約を 2 文で書いている。100 字を一文で記述することも可能ではあるが、文意の捻じれが生じやすい。「本文を全く読んだことのない人にわかる要約をするように」と生徒たちに伝えてきた。そして「目安として 100 字を超える場合は 2 文以上に分けて書くように」とも指導してきた。生徒 A はしっかりとこの思考で初読要約をまとめあげることができている。なお、ほとんどの生徒たちもこの思考はできていた。とりわけ、生徒 A の意味段落1の初読要約した論述を見ると、「意味とは……だ。一方、……考えられる。このように……見なす。」という構成で述べている。定義を述べ、その対置する情報を記したうえで、要約をまとめる。論理の構成がわかりやすい。本文を読んだことのない他者にも理解できる表現を目に見える形で示したと判断してよい。

さらに、生徒 A は本文全体の要約で、意味段落1を必要な情報とせずに判断し解答をしている。生徒 A は私の示した初読要約の解答例を通した解説を聞くときも、自分自身で納得しているという様子を見せた。欲を言うと、意味段落1の本文の情報をを用いて 100 字以内で要約できないかと生徒たちに問いかけることも可能であった。私が生徒たちに示したものは、あくまでも解答例である。なお、生徒 A は欄外などに書き込みをしてないが、それは大きな問題ではない。生徒自身が要約をまとめあげる思考の方法を納得できることが大切である。

資料4は生徒 B の初読要約である。資料4の右側が意味段落1の要約、左側が本文全体の要約である。

すぐに目に付くのは 100 字を超えてしまっている点である。意味段落1の要約では 5 文字、本文全体の要約では 10 文字である。与えられた課題の条件で答えるという基本ができていない。このことは添削時に朱書きを通して伝えるか、もしくは生徒 B 本人に直接伝える。「国語設問解答シート」返却時に、「示された設問の条件下で解答すること」をクラス全体に伝える。もちろん、生徒 B が集中して取り組んだ初読要約をあげつら

うなどせずに、である。

生徒Bの意味段落1の初読要約を見ると、「意志とは……。しかし、……と考えられる。」という論述である。「とは」で定義を示したうえで、逆接で筆者の思考を要約できている。論理の構成がわかりやすい。これも本文を読んだことない他者に伝わりやすい述べ方である。このように、生徒Bの初読要約を通していえることは、教師が注意すべきことは注意するが、同時に生徒が取り組んだことで、できていることは確実に褒めるという指導の姿勢である。

さらに、生徒Bの意味段落1の要約をみると、二重線で削ってよい箇所を消している。また、3行目に「働きを指す」という記述の右横に「なす力」と本文からの情報を添えている。「……を指す」の対象が「働き」と「働きをなす力」とでは、読み手の受け取る意味は大きく異なる。こうした削ってよい箇所と削ってはいけない箇所について、生徒自身に気づかせることが、論述をよりわかりやすくしようとする思考や態度を育む。延いては論述の細部の表現に留意することにもつながる。

資料5は生徒Cの初読要約である。資料5の右側が意味段落1の要約、左側が本文全体の要約である。

先に本文全体の要約の記述から分析をしたい。字数を3字超過して、2文で記述している。意味段落2における筆者の「意志と選択とは明確に区別できる」という2行目から3行目に記している。そのうえで「区別できるが」とあるように、逆接「が」を用いて、意味段落3の「すりかえている」という筆者の論展開へとつなげる記述にしている。これは、本文の内容を説明する際に用いる「……が(だが)、……だ」という論法を取る。論述の思考の型として身につけることができていると判断してよいだろう。

文章を書くとは決して容易いことではない。生徒Cは意味段落1の初読要約においても、同様な論述の型で書いている。1文目の「意味は……であるが、……独立している。」という、1行目から3行目の記述である。そして、生徒Cは2文目で「そのような…」と文と文をつなぎ、筆者が述べる「意志」を「曖昧な概念」ということを説明できている。

3名の生徒の初読要約を分析した。まだ課題はあるが、年度当初からの初読要約の継続的な指導により、生徒に「他者が論述した文章や話した内容を速く正確に捉える力」を身につけることはできたと判断してよいだろう。

資料6は、生徒Dが初読要約をした後に取り組んだ語句の意味調べである。教師の初読要約の解説の後、電子辞書を用いて調べさせた。数研出版の『論理国語』教科書には、脚注に注意すべき語句が掲載されている。これを調べさせる。それ以外の語句を調べてもよいと指示する。この語句の意味調べも4月当初より継続的に行ってきた。資料6にあるように、生徒Dは語句の意味に丸をつけている。これも年度当初から、語句の意味において核心となる箇所にチェックを入れるように指導してきたからである。語句の意味を一言一句、正確に覚えるのは難しい。だが、核心部となれば抵抗感をなく継続して取り組むことができよう。

なお、私が担当する『論理国語』の授業では、机上に電子辞書を常置しておくよう年度当初から指示を出している。多くの語句の意味を知ることが大切だが、何より辞書を引くこと自体が勉強であるという意識をしっかりと定着させるためである。

4 考察

高等学校第3学年2学期前半という時期に、「論理国語」で生徒が評論を初読で要約する学習指導を試みた結果、評論の具体的な指導の体系化に向けて、その骨格が見えてきた。以下①から⑭に整理して示す。

- ①初読要約は、実際の読書、他教科等の学習、高等学校卒業後の大学での論文読解などに通じる性質を有する。
- ②年度当初に評論を初読要約する意義を教師が生徒に明確に伝える。

- ③初読要約をする意義を生徒が納得すると、「論理国語」の授業内で集中して静かに初読要約に取り組む。その学習態度は1年間継続していく。
- ④生徒にとっては、文章全体をまず俯瞰して捉えることで、各段落の役割と言葉による具体と抽象の操作を学ぶ機会となる。
- ⑤評論の初読要約から展開する学習指導は、生徒の取り組み自体を教師が褒める姿勢を前提とする。国語科の学習とは、「根気強く努力し続けていく中で、学力が向上していく性質をもつ」と私は考える。生徒が要約できなかつたり、文章をまとめられなかつたりするのは、教師の責任である。それを教師が生徒に対して叱責するのは容易い。これまで、教科指導のみならず、教育に関わる諸分野で説かれ続けてきた、言うのは簡単だが、実行するのが難しい「褒めて伸ばす指導」を、初読要約は可能とする。
- ⑥初読要約の指導のポイントは数点に絞る(注4)。あれもこれも事細かく指導をすると、生徒には学習の重要度がわからない。
- ⑦生徒は「国語設問解答シート」の添削および点検について肯定的・前向きな態度で捉えている。生徒自身が思考したことを教師が的確に評価する機会となる。
- ⑧初読要約では、扱う教材ごとに字数と制限時間を変更することが効果的である。これは上記③にも通じる。
- ⑨予習や復習と称して100字や200字で字数を固定的に課題として生徒に提出させるよりも、授業内で要約を組み立てる方が効果的である。
- ⑩本文の読解を生徒にさせるとき、本文の内容を読解させるのではなく、生徒が本文の論理把握をすることに指導の重点を置く(注5)。
- ⑪本文の論理把握をする授業は、生徒を退屈させない。
- ⑫本文を根拠に答えるという国語科の学習を常に授業で保障している。
- ⑬論理把握をする授業を繰り返していくと、生徒は本文の内容を理解していくことにつながる。
- ⑭初読要約は、生徒の高等学校卒業段階における国語学力を診断するのに極めて有効な指標といえる。

5 おわりに

教師は生徒の現状をつぶさに捉える。そして、何が課題かを診断し、最も適切な方法を選択・駆使して生徒を豊かに強くする。それが教師の仕事である。そういった意味で教師に求められる資質・能力は医師と同様である。これは、本実践を通して私が再認識した視点である。生徒がこれからの時代を生き抜く力を育成できる具体的な指導技術とかかわり方を実践して報告する。それを多くの先生方と共有できたらと思う。

現在の勤務校で、評論の初読要約を学習指導して約2年間を終えた。次年度もこの学習指導を継続していきたい。その中で、評論の初読要約から展開する学習指導の体系化を目指していく。

注

(1) 青山昌弘(2025)「初読段階で評論の要約を書く学習指導の研究—ChatGPT を活用していく世代への一年間の継続的な取り組みを通して(高校一年『現代の国語』)—」(『国語論集』22号)および、青山昌弘(2025)「評論を初読で要約する授業の指導上の留意点—高校3年生『論理国語』における1学期の実践を通して—」(『国語探究』第7号)

(2)注(1)青山の前掲論文。

- (3) この点に関して、長谷川祥子・田邊泰・西山明人・加賀谷・いづみ(2025)「中学校国語科における論理的文章を『読むこと』の授業研究」(『教育人間科学部紀要』第16号 青山学院大学教育人間科学部)は、令和6年度全国学力・学習状況調査の中学国語の結果を「目的に応じた内容になっていない解答が見られる」とされ、「必要な情報を取り出すことや、表現の効果を考え、説明すること」に課題があるとまとめられている。これらは中・高等学校国語科授業の課題を端的に示し、文学的文章と論理的文章との本質の理解が不十分であることが起因しているといえることができる」と指摘している。私は、このことから初読要約の指導が効果を発揮すると考える。そのうえで、中学校(義務教育段階)から初読要約を指導し、高等学校への初読要約への系統的な指導も、今後の実践と検証に値すると私は捉えている。
- (4)本実践における生徒の記述を添削する指導技術は、市毛勝雄(2010)『小論文の書き方指導』(明治図書)の理論と実践を参照している。
- (5)今後、国語科として論理的思考力を育成すべきだとする背景は、注(3)長谷川・田邊・西山・加賀谷の前掲論文「4 国語科で育てる論理とは」に詳しい。本稿執筆にあたり参照した。

(あおやままさひろ／愛知県立刈谷高等学校)

令和8年(2026)1月24日 受理

【附記】拙稿は、『国語速報』第2巻(国語探究研究会、令和8年(2026年)1月24日受理)に掲載されたものを再掲したものである。